

果樹の雪害防止対策に関する情報（第 3 報）

秋田県果樹試験場

1 積雪の状況

県南部の積雪は、1 月 23 日まで 60 ～ 80 cm で推移したが、1 月 24 日からのまとまった降雪により急激に増加し、1 月 31 日には 151 cm に達した。その後、2 月 11 日に 120 cm まで下がったものの、11 日以降の降雪により、13 日 9 時現在 190cm（図 1 果樹試験場本場横手市）となっている。

これまで掘り上げなどをしていない園では枝の折損がみられるようになってきた。

2 月 11 日以降の降雪では、短時間で急激に積雪が増えたため樹上の冠雪が多く、下枝はほとんど埋没している。また、降雪により枝が埋没している地上 120 ～ 190 cm の部分は、低温下での「粉雪」であったため、今のところ雪密度は低めであるが、今後沈降するに従い連続した「しまり雪」の層になってくる。更に、降雪や沈降により雪密度が増すと枝の掘上げが難しくなるので、早めに園地に入って枝の掘上げなど雪害防止対策を実施する。

2 月 8 日発表の東北地方 1 か月予報では、東北日本海側の気温は低く、降雪量も多い見込みであり積雪量は増えることが予想される。早めの対応を心がけ、雪害防止に十分留意する。

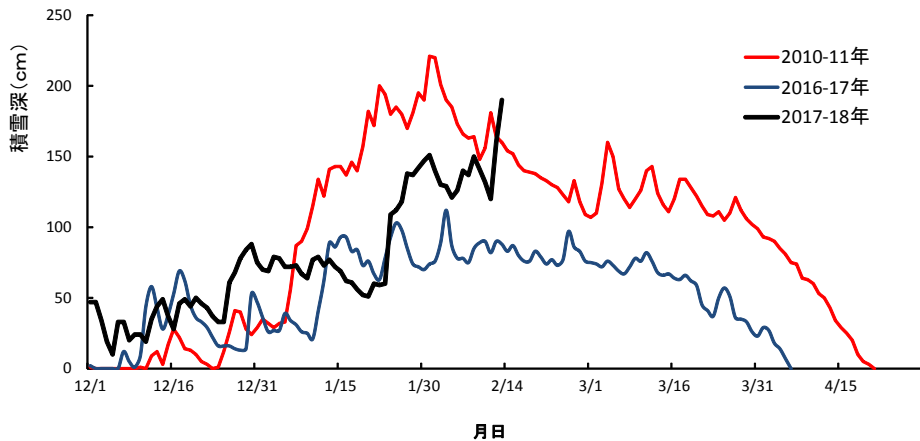


図 1 積雪深の推移（果樹試験場本場 横手市）

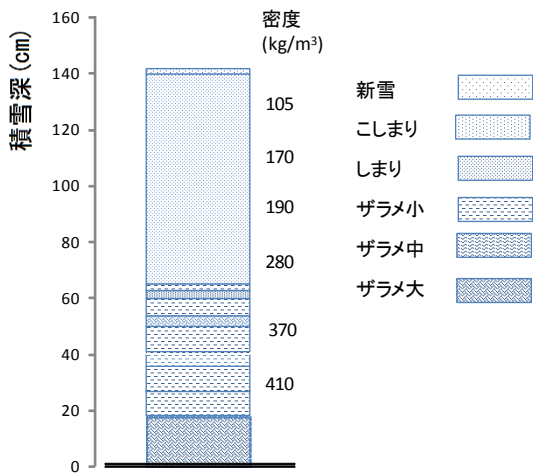


図 2 積雪断面の状況  
（2 月 1 日、果樹試験場本場）



図 3 リンゴわい性台樹の状況（2 月 14 日）  
（木柱は雪面上 1 m しか見えない）

## 2 雪害防止対策

### ① 樹上の雪下ろし

木に積もった雪を雪ベラなどで落とす。以前に雪害を受けて補修した木は、再度被害を受けやすいので優先的に作業を行う。

### ② 枝の掘り上げ

リンゴわい化樹、マルバ台樹の大枝についた側枝など、雪に埋没した下枝が積雪の沈降で枝折れするのを防ぐために、枝の掘り上げを行う。枝を掘り上げたら枝下の雪は踏み固めて枝が沈降しないようにする。

マルバの主枝、垂主枝、わい化樹の主要な下枝などがしまり雪の層に深く埋没し、掘り上げが困難な場合は、引き上げを妨げている横枝を切断して(図4)、大枝を上げ守るようになる。

### ③ 苗木、若木の主幹周りの雪踏み

幼木や若木は既に野そ被害が発生しており、今後の被害防止のためにも主幹部の周りもしっかりと踏み固める。

### ④ 施設の除排雪

雪が軽いうちにブドウ棚やリンゴ園のトレリス、オウトウ園の雨よけハウスなどの除排雪を行う。トレリスの鋼線、ブドウ棚の番線などが雪に埋没すると沈降力で引き下げられ施設の破損や倒壊を招くので雪に埋没させないように早めに対応する。

### ⑤ 消雪剤の散布

晴れの日が2日以上続くような日に消雪剤を散布する。

資材として木炭等を粉状にした粉炭(粒径1~3mmのもの)を用い、10 aあたり30 L程度を薄く均一に散布する。消雪剤の散布により、雪質が「ざらめ雪」に変化し、雪と枝との密着が軽減される。積雪期間に3回程度散布すれば、消雪が7日~10日程度早まる。



図4 横枝の切断による主要な枝の引き上げ